

普段とは違う視点から見た23区、
知ればもっと面白い!

コマなく さんぽ



練馬区

30余年過ごした住居と庭を公開

「牧野記念庭園」は、植物学者牧野富太郎(1862-1957)が、亡くなるまでの30余年を過ごした住居と庭の跡地です。現在の高知県で生まれた牧野博士は、ほぼ独学で植物の知識を身につけたのち、東京大学理学部植物学教室へ出入りし研究発表を重ねました。1500種類以上の発見・命名植物や40万点以上の植物標本を残した人物であり、日本の植物分類学の父とされています。

博士は、自ら採集し知人からも取り寄せたさまざまな植物を自邸の庭に植え、「我が植物園」として大切に育ててきました。博士が愛したその地を一般に公開し、その偉業を末永く後世に伝えるため、1958年に庭園として開園しました。

博士が居住し研究を続け、直接植栽したと推定される植物が多数現存していることなどから、2020年には東京都指定名勝及び史跡になりました。

牧野博士の姿をたどる展示と庭

記念館の常設展示室には、解説パネル、博士愛用の採集道具や描画道具、博士の執筆した書物や描いた植物図などが展示されています。

鞘堂に守られた内部には、書斎と書庫の一部が保存されています。博士は晩年、庭で植物の観察を行い、この書斎で著書の執筆や植物の描写などにいそしみました。また、書庫には4万5千冊にも及ぶ書籍が積み上げられていました。当時を伝えるこれらの建物では、博士の在りし日が偲べれます。

庭園には、サクラ‘センダイヤ’、ヘラノキなど博士が全国各地から集め植栽した植物やコナラ、エゴノキといった武蔵野の雑木林の面影を残す植物などが300種類以上生育しています。四季おりおりの風情をお楽しみください。

生誕160年の記念行事を予定

本年は、牧野富太郎生誕160年を記念したイベントが当記念庭園で複数予定されています。また、来年春季には、牧野博士が主人公のモデルとなっている、NHKの連続テレビ小説が放送開始となります。

偉大な功績を残しただけでなく、植物を愛し植物に一生を捧げた魅力的な人物である牧野博士の生き方を展示や庭園を通じて感じてみてください。

日本の植物分類学の父 牧野富太郎の業績を顕彰する 「練馬区立牧野記念庭園」

新種の発見や命名、植物誌の刊行など数々の功績を残し、生誕160年を迎えた植物学者・牧野富太郎博士の住居と博士が愛し育んだ庭を、ゆかりの品などとともに保存公開しています。



記念館外観



鞘堂内にある書斎と書庫



常設展示室



貴重な植物も多い庭園



牧野博士が命名した(左)「サクラ‘センダイヤ’」と(右)「スエゴザサ」



牧野富太郎生誕160年記念特別展 「牧野富太郎と万葉集の植物」

会期:令和4年7月23日(土)～9月25日(日)

時間:9:30～16:30

内容:牧野博士が関心をもった万葉集に詠まれた植物。それらについて博士が書いた文章と、水島南平らに描画を依頼した図を展示します。

練馬区立牧野記念庭園

所在地 練馬区東大泉6-34-4

開園時間 9:00～17:00

休園日 火曜日(祝休日の場合は翌平日)、
年末年始(12/29～1/3)

入園料 無料

アクセス 西武池袋線大泉学園駅より徒歩5分

お問い合わせ 03-6904-6403

